

事業名：2 沿岸漁業研究事業
 細事業名：(2) 環境に適した漁法の開発試験
 期間：H27～R2 年度
 予算額：1,010 千円（単県）
 担当：増殖推進室（太田 武行）
 目的：

近年の海水温上昇等の漁場環境の変化により、沿岸の水産資源の組成や分布が大きく変動していることから、変化に柔軟に対応した対象種や漁法の見直しが必要である。しかし、近年、魚価の低迷、燃油高騰等により漁業収益が大幅に減少し、漁業者には自ら新たな漁業へのチャレンジや未利用漁場の開拓をする余力もない状態であるため、試験操業により、新規漁場開拓や漁法改良を行うことを目的とした。

成果の要約：

1 調査内容

(1) 深場でのアカムツ、アカアマダイを対象とした漁法開発

浅海域での底魚の漁獲低迷に対応すべく、従来の沿岸漁業では利用していなかった水深 130m 以上の海底付近でのアカムツを狙った漁法開発を行った。また、近年、遊漁等で釣獲実績のあるアカアマダイについての漁場探査を行った。

まず、アカムツに関しては、島根県西ノ島の漁法のマダイ樽流しを改良し開発した漁具を使い、6 月 29 日に鳥取県漁業協同組合淀江支所で延縄を操業している漁船の用船し、試験操業を実施した。

また、アカアマダイを狙った延縄操業での可能性を検討するため、8 月 19、25 日に同延縄漁船を用船し、試験操業を実施した（表 1）。

表 1 アカムツ・アカアマダイ試験操業の結果

| 使用船舶 | 鳥取県漁業協同組合 淀江支所 延縄漁船（4.8トン） | | | |
|----------------|----------------------------------|----------|----------|----|
| | 6月29日 | 8月19日 | 8月25日 | |
| 漁法 | 樽流し | 底延縄 | | |
| 漁具数（針数） | 計6樽×13本 | 計6鉢×120本 | | |
| 試験操業海域 （水深） | 大山沖 | | | |
| | 134-146m | 78-83m | 103-106m | |
| 魚種名 | ウツカリカサゴ | 0 | 9 | 0 |
| | キダイ | 0 | 5 | 2 |
| | ムシガレイ | 0 | 0 | 4 |
| | ヨリトフグ | 0 | 0 | 2 |
| | マアジ | 0 | 1 | 0 |
| | ホンザメ | 0 | 1 | 0 |
| | モヨウカスベ | 0 | 0 | 1 |
| | ダイナンウミヘビ | 0 | 0 | 1 |
| | 合計 | 0 | 16 | 10 |

(2) サワラ曳縄釣でのサンマ以外の餌検討

鳥取県では夏季以降、1kg 以上のサワラを狙った曳縄釣では、餌にサンマを用いることが主流である。しかし、近年のサンマ不漁により餌の確保が難しく

なりつつある現状があったため、サンマの代替となる生餌と疑似餌について検証することとした。なお、調査手法は、おしどりによる試験操業で、サンマ餌と併用して、代替餌のイカナゴまたは疑似餌を同じ水深帯で曳くことで比較した。

2 結果の概要

(1) 深場でのアカムツ、アカアマダイを対象とした漁法開発

まず、樽流し立縄であるが、図 1 のとおり漁具開発を行った。なお、漁具の投入の際は微速前進しながら行った。

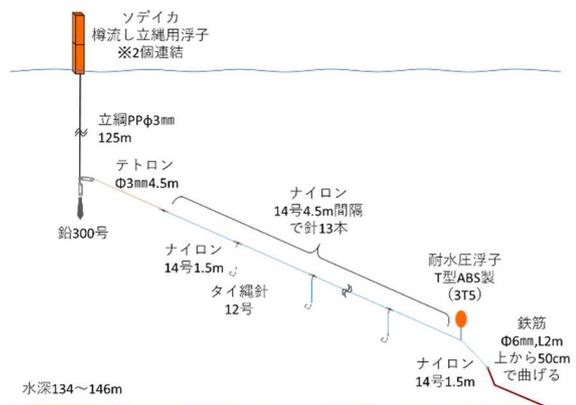


図 1 アカムツ用に開発した樽流し立縄

結果として、漁獲にはつながらなかったものの漁具のもつれ等のトラブルはなかった。

次に延縄の試験操業だが、対象としたアカアマダイは採集できなかった。主に採集された魚類はウツカリカサゴ、キダイ、ムシガレイであった。8 月 25 日の試験操業では、多くの枝縄が噛み切られており、試験操業海域に相当数のヨリトフグがいたものと考えられ、これが低釣果の一因となったと判断している。

(2) サワラ曳縄釣でのサンマ以外の餌検討

イカナゴとサンマでの比較試験を行った結果、それぞれ 7 尾と 5 尾のサワラ（平均尾叉長 774 mm，最小 720 mm，最大 860 mm）が釣獲された。この結果からイカナゴはサンマと同等な餌として活用できる可能性があるかと判断できたため、沿海漁業協同組合・支所に情報提供を行った。情報提供後、鳥取県漁業協同組合淀江支所の一部の漁業者等がイカナゴを餌とした曳縄釣を行っている。

また、疑似餌に関しては、盛漁期を逸したこともあり、釣獲が出来なかった。

成果の活用：

・試験操業結果等を資料にまとめ、漁業者、漁協職員に情報提供を行った。